

# 北里大学理学部同窓会報

2020年 第23号



25周年記念式典



2019年度 定期総会集合写真

## ● CONTENTS ●

会長挨拶……………	P 2	就職ガイダンス……………	P 6
2019年度理学部同窓会定期総会報告……………	P 3	近況報告バトンタッチ……………	P 8
北里大学理学部・医療衛生学部創立25周年 記念講演会／記念式典／記念祝賀会開催……………	P 5	活躍する同窓生……………	P 12
衛生学部同窓会資料の管理に関する協定の解除 ならびに当該デジタル化資料の引き渡しについて…	P 5	同期会報告……………	P 14
		理学部事務室より……………	P 15
		就職センター／同窓会からのお知らせとお願い…	P 16

理学部同窓会ホームページ：  
<https://kitasato-rigaku-d.jp> または <https://北里大学理学部同窓会.jp>



## 「理学部の創立25周年にあたり」

理学部同窓会長 沼上 清彦  
(HC6)

会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年度、理学部が創立25周年を迎えたことは、皆さまご承知のことと存じます。これを記念して去る2019年4月20日に理学部と医療衛生学部の合同イベントが新横浜プリンスホテルにおいて開催されました。この詳細は本会報の関連記事のページをご覧ください。

また、これに合わせてそれぞれの学部ごとに創立25周年の記念誌が発刊され、前述のイベントの際に配布されています。

さて、理学部が生命科学領域のみならず、ピュアなサイエンスをも探究する秀逸な学部であることは、創立以来四半世紀を経過して、もはや広く社会に認知されてきたものと承知しています。

この理学部の特徴は、北里大学7学部の中で、理学部が職能ともっとも縁遠い学部であるということを示しています。

職能ともっとも縁遠い学部であるということは、理学部卒業生の自由度が高いということであり、言い換えると卒業生の絆がともすると緩かったり、出身学部に対する思いが希薄になりがちであるということでもあります。

本会は、このような脆弱性を孕んだ体質をもつ組織体ですが、少しでも理学部の発展に寄与したい、在校生の支えになりたい、そして会員同士が心が通い合わせる基点でありたいと願いつつ日々活動をさせていただいているところです。

その思いの一環でもありますが、理学部の創立25周年に祝意を表するため、2019年度定期総会での審議を経て、理学部の教育研究活動の充実のために寄与することを目的に、些少ではありますが、5百万円を理学部へ寄贈させていただきました。

については、寄付金目録を7月6日に開催された「理学部教職員と理学部同窓会役員との懇談会」の席上で真崎康博学部長に贈呈をさせていただいた次第です。



現在の理学部同窓会は、旧北里大学衛生学部の改組に伴い、1994年4月に旧衛生学部同窓会が本会と医療衛生学部同窓会への組織変更によって誕生したものです。しかし、その起源は、1966年に創設された北里大学同窓会に始まります。

北里大学同窓会の設立当初の構成員は、旧衛生学部卒業生だけであったからです。すなわち、本会は7学部同窓会の中で、設立53年を経た最も歴史ある組織であることを会員の皆さまには改めてご理解をいただければと思います。

ともあれ、理学部に改組されてから、25年という時が流れ、理学部卒業生は23期、4,402人が輩出されています。理学部出身会員は、その多くが社会で秀でた活躍をされていますが、前述のような弱点もあります。

老婆心ながら申しあげれば、この創立25周年を機に、皆さまの優れた素地を育んだ理学部のさらなる発展のために、卒業生としてどのような貢献ができるかをご再考いただければ、それは大変喜ばしいことだと思います。

# 2019年度理学部同窓会定期総会報告

2019年度理学部同窓会定期総会が5月18日(土)、13時00分から相模原キャンパスS号館(理学部校舎)3階 セミナー室に於いて開催されました。終了後、真崎学部長、川崎物理学科長、弓削化学科長、太田生物科学科長・就職指導委員長にご出席を頂き、学部、各学科および就職関係の近況説明が行われました。その後、臨床教育研究棟(IPE棟)1階 フードコートに於いて懇親会を行いました。

長原監事(HC1)と監査した結果、正確かつ妥当であった旨の報告が行われた。

その後、質疑応答が行われた後、2018年度の事業報告および収支決算について一括審議の結果、賛成多数で原案通り承認された。

## 2018年度収支決算書

自2018年4月1日 至2019年3月31日

**出席者:49名**(第1号議案の3名を含む):長原勝彦(HC1)、小池惇平(HC1)、坂口洋(HC2)、竹澤美男(HC4)、中野勝雄(HC5)、沼上清彦(HC6)、小沼和久(HC6)、石原裕三(HC7)、麻生綱男(HC8)、蓮沼良一(HC11)、國香清(HC11)、島崎道広(HC12)、藤本玲子(HC12)、氏家重夫(HC12)、内田宏(HC14)、雨宮純子(HC14)、須貝昭彦(HC18)、八井田文子(HC19)、田所順一(HC19)、甲斐恒人(HC20)、小泉博之(HC22)、木村武俊(HB1)、佐藤康之(HC28)、坂内健志(HB2)、渡辺知広(HC30)、秋本護(HB4)、前川敏郎(HB4)、福山勝也(HC31)、村上裕章(HC31)、平井正美(HC31)、篠川裕子(HB5)、石原稔(HC32)、酒井利奈(SP1)、桑原美保子(SP1)、藤井祐介(SC4)、田村啓(SB4)、松本俊英(SP8)、荒木恒平(SC9)、齋藤昂良(SB10)、曾根靖人(SC11)、上村和豊(SB13)、杉本愛(SP15)、逸見拓谷(SC17)、小田本実佳(SB17)、沖山悠太(SC19)、友広幹久(SB21)、八武崎力(SP22)、佐々木友哉(SC22)、霜田れもん(SB22)

**委任状提出者:51名**:西尾公男(HC3)、石川一郎(HC9)、石水和我夫(HC10)、衣川佳美(HC13)、森孝之(HC14)、星名達行(HC15)、飯島宏(HC20)、鈴木芳弘(HC21)、山下直行(HC23)、椎名文乃(HC24)、小笠原正勝(HC25)、竹尾文彦(HC26)、櫛部一彦(HC26)、長谷部浩司(HC27)、伊藤昌史(HB1)、千葉貴子(HC28)、吉田奈美(HC29)、矢口晶(HB4)、井村幸介(HB6)、中條総子(SC1)、吉瀬晴子(SB1)、江島史緒(SB2)、中野章代(SC3)、小林麻衣(SP4)、吉本真紀子(SB4)、田辺由美子(SC5)、三浦慎一郎(SB5)、國廣喜史司(SP6)、東海林周平(SC6)、佐々木千明(SB6)、武者孔佑(SP7)、千ヶ崎裕介(SC7)、吉野成嗣(SB7)、小野憲司(SP8)、森口友敬(SB8)、田草川英昇(SP9)、江澤絵真(SB9)、富澤良弘(SC10)、菅谷大地(SB10)、小林宣文(SP11)、露木早紀(SB11)、奥田悠介(SP12)、上村勇介(SC12)、石毛達也(SB12)、高崎美文(SP13)、厚木将志(SC13)、千葉慧(SB15)、新美恭(SC18)、吉成英里佳(SC20)、橋内凌太(SP21)、立石智美(SC21)

**欠席者:23名**:伏見尚登(HC16)、山田淳(HC17)、立松佐吉(HC18)、嶋宮民安(HB3)、平山幸二(SP2)、山本あゆみ(SP3)、矢野太一(SC3)、小林琢也(SB3)、大西新(SP5)、鈴木健太郎(SC8)、保住厚兵(SP14)、神田章宏(SC14)、新山勇人(SB14)、南川晴紀(SP16)、川崎貴之(SC16)、藤川圭太(SB16)、長谷川祐紀(SP17)、山神廉弥(SP18)、三田一帆(SB18)、松本慧一(SP19)、梅川恵美(SB19)、池谷侑紀(SP20)、櫻原里奈(SB20)

## 1. 開会の挨拶

司会の松本理事(SP8)から、本会規約第15条第2項に「総会は総会構成員の3分の1以上の出席を必要とする」と規定されており、本日は、総会構成員数が報告事項まで123名で、その3分の1は41名であるのに対して、出席者数が49名、委任状提出者数が51名の計100名となり、本総会は成立することが報告され、開会が宣言された。

## 2. 議長団の選出

議長に田所代議員(HC19)、副議長に内田代議員(HC14)、議事録署名人に木村理事(HB1)、逸見代議員(SC17)が提案され、全会一致で承認された。

## 3. 沼上同窓会長挨拶

沼上会長(HC6)から出席者に対して日頃の同窓会活動への理解と協力に対する謝辞が述べられた。続いて、新千円札の図柄に学祖北里柴三郎博士の肖像が採用された件について祝賀が述べられた。また、4月20日に実施された理学部・医療衛生学部創立25周年記念式典等の概要について説明されたのち、本会としては創立25周年を記念して理学部へ相応の寄附をしたい旨の挨拶があった。

## 4. 報告および決議事項

### ★報告事項

- 2018年度事業報告および2018年度収支決算報告の件  
甲斐事業担当副会長(HC20)より2018年度事業報告を、須貝財務担当副会長(HC18)より2018年度収支決算書に沿って説明が行われた。
- 監査報告の件  
村上監事(HC31)から、2018年度の会計および事業執行について、

収入の部	(単位:円)		
費目	① 予算	② 決算	増減(②-①)
学部還元金	5,557,000	5,557,000	0
年会費	300,000	310,000	10,000
会報送料補助	404,000	404,000	0
利子	1,000	685	△315
前年度事業資金	250,000	250,000	0
雑収入	0	33,000	33,000
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	1,300,715	1,300,715	0
合計	7,812,715	7,855,400	42,685

支出の部		(単位:円)								
分類	大項目	中項目	① 予算	② 決算	増減(②-①)					
運営費	会議費	総会費	1,650,000	885,970	1,449,858	△200,142				
		理事会費		482,688						
		委員会費		81,200						
	事務局費	事務人件費	事務人件費	1,730,000	1,271,534	1,386,639	△343,361			
通信費			26,018							
物件費			82,265							
雑費			6,822							
渉外費	慶弔費	慶弔費	300,000	23,671	77,295	△222,705				
		交際費		53,624						
事業費	集会援助費	集会援助費	200,000	160,100	160,100	△39,900				
		会報発行		1,350,000			1,167,008	1,167,008	△182,992	
		就職ガイダンス		800,000			601,257	601,257	△198,743	
		教職員との懇談会		懇談会費			250,000	220,987	220,987	△29,013
		学部への寄贈品		図書			100,000	99,757	99,757	△243
				物品			0	0	0	0
		講演会協力費		担当手当			100,000	36,000	36,000	△64,000
		学術集会補助					50,000	50,000	50,000	0
		卒業研究功労賞					240,000	240,000	240,000	0
		カミングホーム					0	0	0	0
		準会員支援		卒業祝賀会協賛金			150,000	120,940	120,940	△29,060
		ホームページ		プロバイダー費			50,000	35,097	35,097	△14,903
		積立金					300,000	300,000	300,000	0
		次年度用事業資金					250,000	500,000	500,000	250,000
予備費		292,715	0	0	△292,715					
合計		7,812,715	6,444,938	6,444,938	△1,367,777					
次年度繰越金					1,410,462					

## 貸借対照表

2019年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	191,372	前期積立金	12,970,638
郵便貯金	121,585	2019年度事業資金	500,000
普通預金	6,621,895	次年度繰越金	1,410,462
事務局用普通預金	842,149		
定期預金	7,104,099		
合計	14,881,100	合計	14,881,100

## 2019年度監査報告

北里大学理学部同窓会規約第9条第4号の規程に基づき、2018年度(自・2018年4月1日 至・2019年3月31日)の会計並びに事業の執行を監査した結果、正確かつ妥当であることを認めます。

2019年4月6日

北里大学理学部同窓会

監事 村上裕章  
監事 長原裕三

## ★決議事項

第1号議案 新代議員選任(3名)の件

会長から、学部から推薦があった2018年度卒業生の八武崎力氏(SP22)、佐々木友哉氏(SC22)及び霜田れもん氏(SB22)の3名を

新代議員としたい旨の提案があり、賛成多数で選任された。

**第2号議案 理学部創立25周年記念寄付金額の再提案について**

会長から、理学部創立25周年記念寄付金額について、医療衛生学部同窓会とのバランスを鑑み、昨年度の定期総会で仮承認された300万円から500万円に再設定したい旨の提案があった。また、今後発生する理学部周年事業の際の寄付金に反映させるため、図書寄贈（毎年10万円）及び物品寄贈（隔年50万円）を廃止して35万円程度を、さらにその他の事業予算を見直して30万円程度を捻出して年間65万円程度を周年事業積立金としたい旨の提案があった。質疑応答の後、賛成多数で原案通り承認された。

**第3号議案 2019年度事業計画（案）の件**

甲斐事業担当副会長より資料に沿って事業計画案の説明が行われた。質疑応答の後で、議長が承認を語ったところ、賛成多数で原案通り承認された。

**2019年度事業計画**

- 1 会報の発行  
同窓会報第23号（通算49号）を2020年1月に発行する。
- 2 学部教職員との懇談会の開催  
学部教職員との懇談会を2019年7月5日（土）に開催する。
- 3 会員集会援助の継続  
同窓生が同期会等を開催する際、200名までは1名あたり200円を、201名以上は1名あたり100円を援助する。ただし、同一趣旨の会への援助は年1回までとする。
- 4 ホームページの運用  
1) 新しい情報を会員へ提供するため、ホームページを随時更新する。  
2) SNSでの情報提供に関して検討する。
- 5 会員情報の管理  
本会の個人情報保護方針に即して、北里大学同窓会と連携しながら会員情報を管理・運営する。なお、会員集会援助に伴うDM用タックシールおよび当該名簿一覧表は継続的に提供する。
- 6 第25回就職ガイダンスの開催（2019年理学部就職ガイダンス共催）  
2019年10月に理学部3年生、修士課程1年生および博士課程2年生を対象とした就職ガイダンスを理学部と共催する。
- 7 理学部若手教員学術集会への支援  
理学部の若手教員主催の勉強会「若手Lab」に対して援助する。
- 8 北里大学同窓会公開講演会（第57回）への協力  
北里大学同窓会公開講演会（海洋生命科学部同窓会担当）に協力する。
- 9 第14回「卒業研究功労賞」の表彰  
卒業研究において学生の取りまとめ等、秀でた活動を行った学生に対して卒業研究功労賞を授与する。
- 10 準会員事業への協力（卒業記念パーティー）  
卒業記念パーティーに祝い金を持参する。
- 11 理学部25周年記念事業への協力  
2019年度内に開催予定の理学部25周年記念事業に協力する。

**第4号議案 2019年度収支予算（案）の件**

須貝財務担当副会長より2019年度収支予算案に沿って説明が行われた。質疑の後、議長が承認を語ったところ、賛成多数で原案通り承認された。

**2019年度収支予算**  
自2019年4月1日 至2020年3月31日

収入の部				(単位:円)
費目	① 2019年度	② 2018年度	増減 (①-②)	
学部還元金	4,860,000	5,557,000	△ 697,000	
年会費	300,000	300,000	0	
会報送料補助	415,000	404,000	11,000	
利子	1,000	1,000	0	
前年度事業資金	500,000	250,000	250,000	
雑収入	0	0	0	
積立金戻入	4,500,000	0	4,500,000	
前年度繰越金	1,410,462	1,300,715	109,747	
合計	11,986,462	7,812,715	4,173,747	

支出の部					(単位:円)	
分類	費目	2019年度		増減 (①-②)		
		①	②			
運営費	会議費	総会費	1,000,000	1,650,000	1,650,000	0
		理事会費	550,000			
		委員会費	100,000			
	事務局費	事務人件費	1,350,000	1,730,000	1,730,000	0
		通信費	50,000			
		物件費	300,000			
		雑費	30,000			
	渉外費	慶弔費	200,000	300,000	300,000	0
		交際費	100,000			
		集会援助費				
事業費	会報発行		1,350,000	1,350,000	0	
	就職ガイダンス		740,000	800,000	△ 60,000	
	教職員との懇談会	懇談会費	250,000	250,000	0	
	学部への寄贈品	図書	0	0	100,000	△ 100,000
		物品	0	0	0	
	講演会費	担当手当	100,000	100,000	0	
	学術集会補助		50,000	50,000	0	
	卒業研究功労賞		120,000	240,000	△ 120,000	
	ホームページ		50,000	50,000	0	
	準会員支援	卒業祝賀会協賛金	150,000	150,000	0	
	25周年記念	寄附	5,125,000	0	5,125,000	
	積立金		0	300,000	△ 300,000	
	次年度用事業資金		0	250,000	△ 250,000	
	予備費		171,462	292,715	△ 121,253	
	合計		11,986,462	7,812,715	4,173,747	

**第5号議案 その他**

代議員から次の議案が提示され、執行部から①議長である会長が議事録署名人を兼務することは問題ないと考える。②については今後前向きに検討することが、③については、これまでの検討結果を踏まえた見解が示され、それぞれ了承された。

- ①議事録署名人を沼上会長が務めているが適切か。
- ②定期総会時に本会所属会員の人的資源を活用してミニ講演会を開催する件
- ③代議員交代や代議員の定年制について

**議長団の解任および閉会の辞**

司会の松本理事から、議事の終了が宣言され、議長団が解任された後、閉会を宣言した。

総会閉会后、学部説明会には真崎学部長、川崎物理学科長、弓削化学科長および太田生物科学科長・就職指導委員長が出席され、学部事務から「理学部説明会の資料」と「理学部パンフレット」などが総会出席者に配付され、理学部説明会資料を基に学部・各学科・就職関係などの近況報告を頂いた。その後、理学部校舎玄関にて出席者全員で記念撮影を行い、臨床教育研究棟（IPE棟）1階 フードコートに於いて、先生方を交えて懇親会を開催し、交流を深めた。

# 2020年度 年会費納入のお願い

本会活動のより活発な活動の為に  
2020年度会費の納入をお願いします。

**年会費：3,000円**

**納入方法：**

- 1) 他の金融機関から「ゆうちょ銀行」に振り込む場合：
  - 銀行名 ゆうちょ銀行 ■ 金融機関コード 9900
  - 店番 029 ■ 預金種目 当座
  - 店名 ○二九店（ゼロニキユウ店） ■ 口座番号 0060155
- 2) 郵便振替の場合：
  - 口座番号：00260-9-60155 ■ 加入者番号：北里大学理学部同窓会

**★お知らせ★**

本会会員同士で結婚されている場合の年会費は、お二人で1名分になります。年会費納入時に振込用紙の通信欄にご夫婦である旨と、氏名および卒業年、学科を必ず記入して下さい。

## 北里大学理学部・医療衛生学部創立25周年 記念講演会／記念式典／記念祝賀会開催

1962年（昭和37年）に北里大学初めての学部として衛生学部が誕生し、これが1994年（平成6年）に発展的に理学部と医療衛生学部へ改組されました。したがって、本年は理学部・医療衛生学部の創立25周年にあたり、これを記念して2019年（平成31年）4月20日に新横浜プリンスホテルにおいて、記念講演会、記念式典そして記念祝賀会が開催されました。

第一部は記念講演会で、真崎康博理学部長の開会の挨拶にはじまり、理学部から川崎健夫教授が「基礎科学と応用科学」、医療衛生学部から高平尚伸教授が「人間社会へのロボットの応用ーロボットAI戦略」と題した講演があり、終わりに北里英郎医療衛生学部長から閉会の挨拶がありました。

第二部の記念式典は、はじめに小林弘祐学校法人北里研究所理事長の挨拶があり、続いて、来賓の大村智特別荣誉教授、平井憲次相模中央化学研究所理事、渡辺敏元医療衛生学部長、中釜斉国立がん研究センター理事長そして藤田医科大学医療科学部長からの祝辞の後、真崎康博理学部長が両学部を代表して謝辞を述べました。

第三部の記念祝賀会は、柴忠義元理事長・元学長からの祝辞にはじまり、伊藤智夫学長による乾杯の後、歓談、DVD上映と続き、沼上清彦本会会長、小林隆幸医療衛生学部同窓会会長の挨拶があり、校歌の斉唱の後、北里英郎医療衛生学部長が両学部を代表して謝辞を述べて閉会しました。



## 衛生学部同窓会資料の管理に関する協定の解除 ならびに当該デジタル化資料の引き渡しについて

理学部同窓会長 沼上 清彦

9月21日14時50分から、北里大学プラチナタワー14階の役員会議室において、「衛生学部同窓会資料の管理に関する協定の解除ならびに当該デジタル化資料の目録引き渡し式」が開催され、9月24日には、デジタル化された資料等が本会事務局に届けられました。

本会は、旧衛生学部の改組に伴い、衛生学部同窓会から本会と医療衛生学部同窓会が1994（平成6）年に設立されました。このとき、衛生学部同窓会資料（総会関係書類、理事会関係書類、その他委員会関係書類、会報等）については、原本を医療衛生学部同窓会が管理する旨の協定が両会の間で締結されています。

この協定に則り、医療衛生学部同窓会は25年間に亘り、膨大な各種資料を保管、管理されてきましたが、医療衛生学部同窓会事務局が2020年度内に現在建て替え中の新校舎に移転予定です。

この移転により、同資料が離散する可能性があること、また、同資料が酸性紙であるため、黄ばみや硬化等の劣化が進行しつつあることから、医療衛生学部同窓会の手により、2018年度から同資料の電子化（pdfファイル）が進められ、過日その作業が完了しました。

そこで、当該資料をまとめたDVDを2部作成の上、それぞれ1部ずつを両会にて継続して保管することにし、合わせて「衛生学部同窓会資料の管理に関する協定」を2019年9月21日をもって解除することになった次第です。

本会の前身の詳細がわかる貴重な資料が、デジタル化により誰でも閲覧できることは、大変意義深いことです。この場を借りて、この作業に精力的にご尽力いただいた医療衛生学部同窓会の関係各位に心より感謝を申し上げます。



（両会長による目録引き渡し式  
（医療衛生学部同窓会 稲垣宏之氏提供）

# 就職ガイダンス

2019年10月23日（水）、L1号館41講義室において、理学部3年生、修士課程1年生、博士課程2年生を対象とした第25回就職ガイダンスが開催され、ミニ講演と集団模擬面接が行われました。

## 講演内容について

ミニ講演 「企業紹介と就職活動を迎える皆さんへのメッセージ」

キュービー(株) 研究開発本部技術ソリューション研究所  
評価・解析研究部おいしき研究チーム 奥田悠介氏 (SP12)

集団模擬面接、講評

HRBC株式会社 松下純也氏  
太陽ファルマ株式会社 メディカルアフェアーズ部  
藤田嘉一氏 (HC17)

今回の就職ガイダンスは、例年通りの就職講演、集団模擬面接に加え、新たな試みとしてガイダンス終了後に本会理事の齋藤昂良氏 (SB10) による教職課程についての質問コーナーも設けました。奥田悠介氏によるミニ講演は、特に自己分析の大切さについてご講演いただきました。模擬面接は、学部生2名と大学院生3名に集団面接の形式で行い、的確かつ説得力のあ

る面接の講評をしていただきました。出席者は、学部生55名 (22.4%)、修士課程12名 (35.3%) でした。前年に比べ少なかったものの、質疑応答時の質問の多さやアンケート結果より、出席者の満足度は高いことが伺えました。就職課程コーナーにおいては、質問者もいましたが、もう少し大々的にアピールしていく必要がありそうです。



ガイダンス風景



ミニ講演の様子

## 『模擬面接に参加して』

生物科学科3年 鈴木 紬

今回の模擬面接は就職活動を控えた私にとって、非常によい経験となりました。今まで参加したインターンシップでの二次選考はすべて4人以上のグループ面接だったので、2人で行った今回の模擬面接は個人面接のような緊張感を感じることができました。就職活動準備中に本番に近い面接を体験できたのは、ともに就職活動をしている同期よりも一歩前に行けたと思いました。模擬面接後のフィードバックでは、実際の面接で企業側が必ず聞いてくる質問や、その答え方を教えていただき、自分の答え方が面接官に対してどのような印象を与えるのか、また、どう答えるべきだったのかを振り返ることができました。エントリーシートに関する講義では、自分の“生”の体験こそがエントリーシートを書く上で非常に重要だと教えていた

いただきました。この具体例を入れることで、その人の努力や熱意が伝わり、より良いエントリーシートを書くことができると感じました。このような貴重な体験を、これからの就職活動に十分に発揮し、笑顔で就職活動を終わられるように努めたいと思います。素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございます。



左：鈴木さん 右：飯田さん

## 『模擬面接に参加して』

物理学科3年 飯田 一成

私は教職の道しか考えていなかったため、今回の模擬面接はとても厳しいものでした。しかし、教員採用試験でも面接はあるため、その面接に活かせるよう“自分の意見は偽りなく述べる”、“目を見て話す”、“面接を楽しむ”は意識しようとガイダンス前から決めていました。

そして多くの学生、同窓会の方々の前で模擬面接を行いました。大勢の前で面接をするわけですから普通は緊張しますが、“楽しむ”を意識していたので緊張せず自分を表現することが

できました。また、就職ガイダンスにも関わらず、第一志望が教職という発言をしてしまったことは不適切であることは重々承知していましたが、“偽りなく述べる”ことに反してしまうので、ありのままを述べさせていただきました。しかしあの場で教職について述べられたということは、私がそれだけ教職に対して熱意を持っているということだと思っています。自分の固い意志をあの手で再確認できたことが今回の模擬面接での大きな収穫です。

最後に、就職ガイダンスを企画してくださった同窓会の方々、学生の様子を見ながら面接してくださった面接官の方々、応援してくれた友人たちには感謝しています。ありがとうございました。模擬面接の経験を活かして、自分の目標に向かって頑張ります。

## 『模擬面接に参加して』

生物科学専攻修士課程1年 佐保菜々子

今回の模擬面接では、まだ就職活動を本格的に始めていなかった私にとって初めての面接経験でした。模擬面接のお話を頂いた時には自分自身の経験がなかったので、多くの人の前でやることに参加をためらいましたが、良い経験になると考え、参加を決意しました。

今回の模擬面接では、今後の課題として2つ見つけることができました。

1つ目は、自己分析です。面接官から自分のことについて聞かれた際、そのエピソードについて詳しく聞か

れ、私は内容の薄い返答しかできず、フィードバックでもご指摘頂きました。自分についてもっと知ってもらうためにも、自己分析をして一つ一つのエピソードに厚みを持たせた説明ができるように準備を進めたいと感じました。

2つ目は、一貫性をもって話をするということです。10分間のグループ面接の中で、最初と最後で話の内容が変わっており、内容の一貫性に欠けるとご指摘頂きました。多岐にわたって話すよりも、本当に伝えたいことに絞って話した方が良いと感じ、自分の話し方、考え方について見直す必要があると感じました。

今回の模擬面接で頂いたアドバイスをしっかり活かして就職活動を頑張っていきたいと思います。大変貴重な機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

## 『模擬面接に参加してみて』

分子科学専攻修士課程1年 齊藤 誉人

今回の模擬面接に参加する前とした後で、私自身の就職活動に対する考え方が180°変わりました。私は就職ガイダンスに参加する前までは、インターンシップに参加した経験がないのにエントリーシートも書いたことがありませんでした。なので“面接なんて、なんとなくでいけるだろう”というような甘い考えを持っておりましたが、実際に本番とよく似たシチュエーションで行ってみると全く自分の想像していたようには質問に答えら

れず、ただただあくせくすることしかできませんでした。こんなにもうまく話せなかったという事実を本番の面接で知るのはではなく、それ以前に知れたということが私にとっていい経験だと思いました。また、具体的に模擬面接のフィードバックをしていただき、私自身に足りないものや直したほうがいいところを指摘していただいたこともありがたく感じております。さらに、面接の受け方や面接官からの質問に対しての受け答え方など、どういう風に話したら短い時間でより自分のことを知ってもらえるのかなどといった情報をいただけました。今回の就職ガイダンスでの体験を活かし、これから迎える就職活動を頑張りたいと思います。このような機会を与えていただきありがとうございました。

## 『模擬面接に参加して』

生物科学専攻修士課程1年 田中 大稀

今回の模擬面接は就職活動を控える私にとって貴重な経験となりました。私は、今までに何度かインターンシップに参加したことはありますが、面接の経験がありませんでした。模擬面接のお話をいただいた時、人前でやることに最初抵抗がありましたが、いい機会だと思い参加することを決意しました。初めての面接だったこともあり、どんな質問が来るのか、所作や応答としてどうするのが良くてどうするのが悪いのかすらあまりわかっていませんでした。そんな状況の私に対し、面接官の方からエントリーシートや、面接での受け答えなど、様々なフィードバックをいただき、自分の面接での良い点、悪い点を明らかにすることができました。また、目の前で他の人の面接での受け答えを見

ることもでき、それに対するフィードバックも聞けたことから、私にないものを知ることができ、とても勉強になりました。

これから秋冬のインターンが始まり、就職活動が本格化していく時期です。今回の模擬面接に参加したことは、これからの就職活動においてとてもプラスになったと感じています。今回このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



左：齊藤さん 中：田中さん 右：佐保さん

# 近況報告バトンタッチ

## 『地域に根ざした活動を通して』

HC5 今井 幸子

卒業して半世紀！早いですね～

卒研先で出会い、卒業翌年に結婚した夫がS47に開学した自治医科大学に赴任したのを機に栃木県に転居し今に至っています。「おーいご飯！ご飯!!」階段下からの夫の声で一日が始まります。約30年間、神奈川県に単身赴任で不在だった夫が昨年戻ってきてからは早起きの夫が朝食を担当してくれます。現在私はといえば週3日家事調停委員として家庭裁判所に行き、また地域では保護司をしています。

### 保護司の活動

「保護司」って聞きなれない言葉ですね。初めて耳にする方も多いのではないのでしょうか。罪を犯した成人や非行に走った少年の社会復帰を支える非常勤の国家公務員ですが、その実態は報酬の無い民間ボランティアです。もう25年前になります但未っ子の三男が高校に進学してやれやれと一息ついた頃、息子の小学校時代にPTAをご一緒した教頭さんから声がかかり、その仕事内容も良く分からぬまま引き受けたのが保護司活動をするきっかけです。これまでに暴走行為などで罪を背負った少年ら20数名の更生と再犯防止に携わってきました。

なぜ罪を犯したのか、どんな人生を歩んでいきたいか、月2回の面談を通じて彼らの心に寄り添い、自力で立ち直れる力を引き出すのが保護司の大きな役割と思い、面談では論ずるのではなくこちらが徹底的に耳を澄ますことで、この人なら『本音で相談できる相手』と認めてもらえるよう接しています。更生した青年から電話で近況報告の元気な声を聴く時は保護司のやりがいを感じます。

先日は下野市保護司会のメンバー18名で八王子ダルク（薬物依存症回復支援施設）を訪問しました。現在覚せい剤取締法違反による検挙者数は年間1万人を超え再犯者率が60%を超える状態が続いています。覚せい剤使用の背景には、薬物依存症の関与があります。つまり繰り返される覚せい剤使用は犯罪であると同時に、病気としての側面もあるわけです。

ダルクに来て半年のH君（36歳）と3年になるK君（39歳）の話では、一度覚せい剤を覚えるとその後家族や友人たちを巻き込み一人では薬を断ち切れない状況になりどうしようもなくなり、ここダルクに繋がったとのことでした。その話の中で『問題は薬物ではなく、生きづらさや自己肯定感の低さで薬物使用は表面のごく一部』と言っていたのがとても印象的でした。

### 調停委員として

47歳の時、これまでの経験を活かしてはと「家事調停委員」の話が舞い込んできました。既に栃木に越して20数年経っていました。その間3人の息子の子育てを通して

PTAや自治会、読書会そして親子映画会等々の代表を務める中でメンバー個々の考えを聞き調整して目的に向かい事業を進めることで、何度か達成感を味わってきました。その延長線上での話と思い応募し任命されました。

5年後に民事調停委員と兼務になり連日多重債務を担当し、帰宅後も損害金の計算に明け暮れた時期もありました。これまで調停委員として様々な事件を担当してきましたが当事者の話を聴き、その真意は何かを見極め、解決に導くことが肝心と肝に銘じています。

「調停の話し合いは何回までできるのですか」とよく聞かれますが、私自身は基本的には本人が納得するまでと思っております。人生の大きな決定に立会うことになるので、当事者の最初の考えとは異なっても当事者双方が納得できる解決案を導き出したいと思っています。調停を機に過去にとらわれず未来へ目が向けられるお手伝いできればと考えながら調停に携わっています。

### 地域のボランティア活動

栃木に来て48年続けて今では生きがいの一つになっているのが生け花です。母が茶華道の教室をしていたので月一回川崎の実家へ稽古に通いながら研究会に参加し、栃木では地域の集会所や中学校のクラブ活動で教えてきました。中学校の入学式や卒業式で生徒自身が普段の稽古とは違う巨大な益子焼の壺で壇上に生ける経験は貴重な体験となったようです。私にとっても生徒の個性をどう生かすか悩み成長する場でもありました。

70代に入り現在では認知症サポーターの登録をして月一回、近くのグループホームでボランティア活動をしています。人生百年時代に突入し、どう生きるかは個々の選択ですが、自分の人生です。これからも納得できる生き方をしたいと思っています。今後もよろしく願います。

次のバトンをHC6の村尾光子（旧姓並木）さんに託します。





## 近況報告バトンタッチ

### 『それぞれの時代に』

HC28 岡崎 靖之

私が北里大学衛生学部化学科に入学したのが平成元年、ちょうど初めて3%の消費税が導入された時でした。段階的に増税が繰り返され令和元年には10%となりましたが、消費税が上がるたびに初めて消費税を経験した入学当時の事を思い出してしまいます。私にとっては記憶を呼び戻すスイッチのような消費税ですが、改めて振り返ってみると、意外にもこの消費税が上がった時が自分の人生の節目とも重なっていることに気づきました。今回はこれに沿って近況報告と共に卒業後のおよそ30年近い日々を振り返りながら書き進めて行きたいと思います。

まずは消費税3%、大学時代から最初に就職した会社に勤めていた時代になります。卒業後に就職したのが菓子メーカーでした。そこでの私の仕事は商品開発部門に配属され、日々試作を繰り返し、原価計算を行い商品化するというものでした。正直に言えば、大学で学んだ事が仕事に生かされたかと問われれば全くと言っていいほど役に立たなかったように思います。あえて言うなら、内容は違えど試作を繰り返し商品化していく作業と、大学での実習や卒業研究で地道に実験・検証作業を行ったことが共通していると言えなくもないという事くらいでしょうか。約5年ほど勤務した中で、当時商品開発し実際に発売されたものがいくつかありますが、一つだけパッケージデザインの変更等を経て、今もお店に並んでいるものがあります。既に発売してから20年以上が経過していることを考えると、もしかしたらこれを読んで下さっている皆さんの中にも1度は食べたことがあるお菓子かも知れません。これが、今の自分と皆さんを繋ぐ唯一のものではないかと思っています。

次は消費税5%に上がった時の事になります。平成9年に導入された訳ですが、それから1年もしないうちに全く違う介護の仕事に就くことになりました。転職の理由の一つに地元の山形へ戻ると言うこともありましたが、全く知識も資格もなく飛び込んだ世界ですが、当時はそれでも就職できた時代でした。介護老人保健施設で働きながら介護福祉士、ケアマネジャーの資格を取ることができ、職場内でも様々なポジションを経験させて頂き、今もこの仕事を続けています。中でもキャリアの半分近い10年間は支援相談員と言う業務に携わってきました。簡単に言えば施設に入所を希望される要介護者の申し込みを受け、その方の病歴や生活歴を伺い、リハビリの目標、さらには退所後の生活についてご本人様やご家族様と文字通り支援と相談をさせて頂く仕事です。この

仕事が面白いと感じるところはいろいろな年代、職業の方々との関わりが持てる事だと思います。入所される方及びご家族様はもちろんですが、病院に足を運び医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携を図ったり、要介護者の担当ケアマネジャーと意見を交わしたり、施設のある地域の方々との交流会に参加したり、本当に多くの方と出会うことが出来ました。医療や介護の専門分野の多くの方々とは話をする機会を持たずには振返ってみると自分の大きな財産にもなっていると思います。

そして消費税8%時代。平成26年に導入され、この年ずっと病気がちだった父を亡くすと言う大きな喪失感を経験をしました。しかし介護の仕事に携わってきた事もあり、今にして思えば自分なりにより良い看取りができたのではないかと考えています。

令和元年、消費税10%と共に50歳を迎えこれからどんな節目が待っているのか、楽しみにしながらこれからも一つ一つ年齢を重ねて行きたいと思っています。

取り留めのない文章になってしまいましたが、これで私の近況報告を終えたいと思います。次は大学の4年間で共に過ごした同級の斎藤博さんへバトンタッチです。



## 近況報告バトンタッチ

『多くの方々に支えられ』

SP5 大西 新

小林さんからバトンを受け取った大西 新です。私は2002年に北里大学理学部物理学科を卒業後、同大大学院医療系研究科に進学し博士(医学)を取得しました。大学院では胎児期の母体の環境と脳神経発達について研究を行い、その研究を発展させるべくPETやMRIによる脳研究のメッカである量子科学研究開発機構(旧国立研究開発法人放射線医学総合研究所)で約10年間、脳神経発達障害と精神疾患の関係について研究を行いました。その後、2015年に小林さんと共同で創薬ベンチャー株式会社RESVOを立ち上げ、現在は、(株)RESVOでCSO(研究統括・取締役)を行いながら(国)島根大学医学部免疫精神神経学で特任教授を務めています。

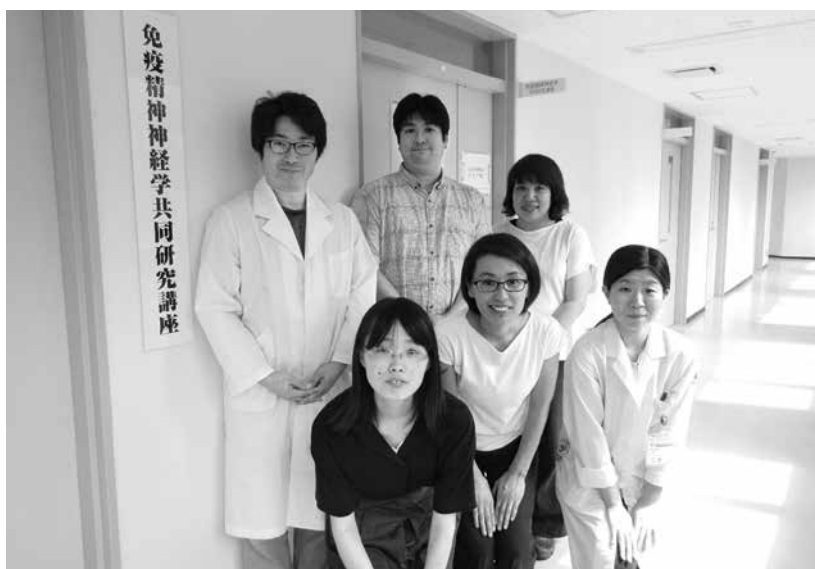
30代で国立大医学部の研究室を教授として主宰することになり、戸惑いの連続でしたが現在は軌道にのり研究成果が上がり始めています。その成果の一つである尿ストレスマーカーは応用範囲が非常に広いことから(株)RESVOが実用化に向けた開発を行っており、近い将来、社会実装されることを楽しみにしております。更に、島根大学医学部精神科と共同で基礎から臨床までシームレスな研究を行い未だ不明である精神疾患発症メカニズム解明に向けた研究活動を行っています。

経歴だけ見ると順風満帆な研究生活であった様に見えるかもしれませんが、大学を卒業してから紆余曲折でした。北里大学大学院医療系研究科において前述の研究を行い博士号を取得し、国立研究開発法人放射線医学研究所に就職しましたが、2011年に東日本大震災によって他に類をみない原子力発電所の事故が occurred。元々放射線医学総合研究所は原子力災害時に対応するために設立された国の研究所であったため、研究どころの騒ぎではありませんでした。更に、研究交流のあった精神神

経疾患の基礎研究の権威であるポール・バターソン先生(カルフォルニア工科大学教授)が2014年にお亡くなりになり研究活動が停滞してしまいました。その後も外部環境の変化によって研究資金が枯渇するなど多くの難題に直面しました。

何とか難題を乗り越え2016年に放射線医学総合研究所を退職し、小林らと共に創薬ベンチャー株式会社RESVOを創業しました。創業当初は資金も研究環境も十分では無く、毎日小林とベンチャーキャピタル(投資会社)を回る日々が続きました。この投資会社まわりは結構過酷で、なかなか投資してもらえず自信を喪失しそうになりました。特に精神的にきつかったのが、収入が無く支出だけの生活が続くことでした。起業をした初期は無給であることを覚悟していたため十分な生活資金を準備していましたが、いつ終わりが来るかわからない中で貯金だけが減っていくことが、こんなに精神的に辛いとは思いませんでした。そんな日々が一年近く続きましたがみんなで頑張った甲斐もあってリアルテックファンドとウィルグループから出資をして頂き会社をスタートさせることが出来ました。その後、親交のある金沢医科大学の八田稔久教授のご紹介で島根大学の太谷浩教授と知り合い、島根大学でラボを持つことになり現在に至ります。

そんなこんなで2018年から本格的に研究生活に戻り、研究漬けの毎日をおくっております。北里大理学部で研究者を志し卒業してから、17年経ちましたが研究を継続できたのも沢山の方々に支えられたお蔭であると思っております。(株)RESVO、島根大医学部免疫精神神経学のスタッフの方々をはじめ、ハードな研究生活を支えてくれている家族に報いられるよう世の中の役に立つ研究成果を出すため邁進していこうと思っております。



島根大医学部免疫精神神経学共同研究講座のスタッフの方々(筆者向かって左)

## 近況報告バトンタッチ

### 『研究開発の原点となった学生時代』

SB6 河野 剛

2004年（平成16年）に生物科学科を卒業しました河野剛と申します。早いもので卒業後10年以上経過し、時代は平成から令和へと移り変わりました。今回近況報告の依頼を受け、久しぶりに学生時代を振り返りながら、簡単に報告をさせていただきます。

大学4年間のうち、3年生までは部活動に没頭していました。体育会少少林寺拳法部で週4日汗を流し、競技大会への参加前は週5日活動することもありました。そのため、講義を受けているよりも体育館にいる時間の方が長いような学生でした。先生方にとっては扱いにくい学生だったと思いますが、この期間に学部を越えた良い仲間達を見つけることができました。4年生になると卒業研究が始まります。生物科学科では、大半の学生が外部の研究機関に通って研究する、いわゆる「外研」となります。私はそれまで部活動に没頭していたこともあり、卒業研究は学内でやりたいという思いが強くあったため「内研」を選択しました。最終的に鈴木先生（当時）が主宰する生体機能学研究室の所属となり、小西先生（当時）のご指導のもと、フェノールオキシダーゼの精製とその性質に関する研究を行いました。卒業後は、就職するか進学するかを悩んだ末、他大学の大学院に進学することにしました。その際、小西先生には、どこに行っても困らないように、酵素の研究法は一通り習得してから卒業させるとのお話を頂きました。卒業研究を通じて必死にスキル習得に励んだことを覚えています。

修士課程を修了後は、現在の勤務先でもある雪印乳業株式会社（現雪印メグミルク株式会社）に就職しました。その後10年間は、転勤や海外赴任を経験し、現在は札幌を拠点としてナチュラルチーズに関する研究開発業務に従事しています。

皆さんはチーズと聞いて何を思い浮かべられるでしょうか。ゴーダやパルメザン等のハード系チーズ、カマンベールやブルー等のカビ系チーズ、モッツァレラ、クリームチーズ等のフレッシュチーズあたりでしょうか。このように、チーズと言っても、その形態や風味、食感には非常にバラエティに富んでいます。それにも関わらず、原材料は実にシンプルで、乳、微生物（乳酸菌、カビ）、レンネット（凝乳酵素）などです。基本はこれらを使用して製造しますが、製造プロセスの違いや使用する微生物の違い、熟成の有無などによって様々な特徴を

持つチーズが生み出されます。チーズは栄養価が高く、食物繊維以外の主要な栄養素をほとんど含んでおり、カルシウムのキャリアとしても注目されています。近年日本では、健康機能面での関心の高まりや、TPP11、日欧EPA発効などによる輸入量の増加によって市場は急速に拡大しています。

チーズの研究開発業務は、風味や食感の制御、それに関わる製造プロセスの設計、機能性評価など多岐に渡ります。チーズ中では、凝乳酵素や微生物が産生する様々な酵素が複雑に作用しており、物質の変化や相互作用によって特徴的な風味や食感が形成されていきます。そのため、本質の理解には生化学的なアプローチが非常に重要になります。これには、学生時代から培ってきた経験やスキルが非常に役立っています。現象は観察できても、その作用機構は不明なものも多く、それらを解明して製品に応用することが研究開発業務の醍醐味です。

今、大学時代を振り返ると、卒業研究や部活動を通じて得られた経験や考え方、出会った仲間たちが現在の生活を支えてくれていると強く感じます。これらをもとに、これからも皆様のもとに一つでも多くの良い製品を送り出せるよう、日々の業務に励んでいきたいと思えます。身近でチーズを見かける機会がありましたら、注目して頂ければ幸いです。



海外赴任中の旅行にて

# 活躍する同窓生

## 『令和元年 春の叙勲受章（瑞宝双光章）と近況』

HC10 岡 眞佐雄

### 【叙勲受章】

私は、理学部（旧：衛生学部）化学科を昭和50年に卒業して、東京消防庁へ入庁し平成24年に退職しました。退職時は、消防署副署長でした。

その後、公益財団法人東京防災救急協会に就職し、平成30年4月に再び東京消防庁の職員として採用され現在に至っています。

ついですが、私の妻も北里大学の同学部の卒業生で、いわゆる北里カップルです。

さて、化学科卒業後44年の月日が経過し、今般、令和元年5月31日に皇居において令和元年春の叙勲で「瑞宝双光章」を受章しました。

「瑞宝章」は長年の職務に対しての功労です。在職中は、一貫して製油所等の化学産業の施設において貯蔵・取扱う石油類（消防法では、「危険物」といいます。）などの災害対策や火災予防を中心とした業務に携わってまいりました。

人命を守り、長年これらの施設の災害予防に取り組んだことが評価されたのではないかと思います。

このような姿勢は、北里スピリットに通じるものと思います。卒業生として、とても光栄に思います。



### 【現在の主な業務】

- 1 防火管理者資格取得講習  
年間を通じて、建物の火災予防等に係る責任者（防火管理者）の養成講習の講師をしています。（年間約50回）
- 2 危険物取扱者等の有資格者に対する講習  
主に石油化学産業やガソリンスタンド等で働く有資格者（危険物取扱免状所持者）に対する講習及び自治

体等の要請に応じた危険物施設の保安管理に関する講習等の講師をしています。

- 3 危険物取扱者資格取得希望者に対する受験準備講習  
主に東京消防庁の初任学生を対象として、消防学校において当該資格取得を希望する方に対する受験準備講習の講師をしています。

### 4 執筆活動

出版社の依頼により、化学関係の出版物の編集に携わっています。

このように、現在私は講師として、防災教育に携わっていますが、これも大学で教職課程を修了し、教員免許を取得したことが大きな糧となっています。



### 【余暇について】

夫婦共通の趣味として、オートバイ（ハーレーダビッドソン）によるツーリングを楽しんでいます。私は16歳の時に大型二輪免許を取得しました。

妻は50歳を過ぎてから大型二輪免許を取得し、現在はハーレーツーリングクラブに所属し、月2回程度、2台のオートバイを駆って、ツーリングを楽しんでいます。

昨年は、富士スピードウェイに全国の会員が集まり、一大イベント（「ブルースカイヘブン」と言います。）があり、コース内をパレードしました。

また、毎年警察からの依頼により、交通安全パレードに参加するなど、社会貢献活動も実施しています。

60歳を過ぎて、このクラブ活動を通して、いろいろな職種の方々と巡り合えることは、とても貴重で、楽しい時間を過ごすことができます。

以上、私たち北里カップルの「今」をお伝えしました。

皆様も人生100年といわれる時代を迎えて、健康に気を付けて、充実した毎日を過ごしてください。

# 活躍する同窓生

## 『森村豊明会奨励賞を受賞して』

SP8 松本 俊英

理学部物理学科8期の松本俊英です。この度は「活躍する同窓生」とのことで、大変恐縮でございますが、「第16回森村豊明会奨励賞」を受賞させて頂きましたのでご報告させていただきます。2018年の同窓会報第21号でも書かせて頂きましたので、その続編という形で改めて近況報告をさせて頂きたいと思っております。

受賞させて頂きました研究課題は「卵巣明細胞癌の臨床応用に向けた新規バイオマーカー探索とその分子基盤解明」でございます。卵巣癌は解剖学的位置関係から、画像による癌の早期診断が困難なことがあり、進行期癌となって初めて自覚症状が出ることもしばしばございます。さらに、その中でも研究対象であります卵巣明細胞癌は、化学療法が効きにくいため再発率も高く、予後不良な癌として認識されております。そこで、卵巣明細胞癌だけに発現するようなタンパク質を同定し、新たな診断法や治療法開発へ繋げることを目的として日々研究しておりました。その中で、Leftyというタンパク質が卵巣明細胞癌の新規バイオマーカーとして有用であることを見出し、論文2報 (*Oncotarget*, 2017; *Mol Carcinog*, 2018) と特許取得 (特許第6339399号) に至った点が、今回の主な受賞理由となりました。この発見は、学生時代よりお世話になっております、北里大学理学部物理学科の小寺義男教授、1学年上で公益財団法人かずさDNA研究所の川島祐介博士との共同研究の結果でございまして、この場をお借りして深く御礼申し上げます。余談ではございますが、受賞講演後に2015年ノーベル生理学医学賞を受賞された大村智先生に「おめでとう」と言われたことが、ミーハー魂満載の私はとても嬉しかったです。

2018年5月より北里大学医学部病理学で講師に昇任となり、病理学総論や器官系別総合 (主に消化器系や生殖

器系) の講義と学生実習、さらには臨床実習の分子病理学講義の担当と、教育業務の主担当を務めるようになりました。さらに、今年から医学部1学年のクラス担任となり、学生の勉強面だけでなく生活面のフォローも担うようになりました。ここまでお話すると「偉ぶっている人」のように聞こえるかもしれませんが、もっぱらの風貌と性格もあり、とても教員としての威厳を放つことはしておらず (放つことができない?)、友達感覚の接し方となっております。私が思い描いていた教員像とはだいぶかけ離れておりますが、それはそれで学生が学びやすい環境であれば良しと思っております。

また、私生活におきましては、今年8月7日に第一子が誕生致しました。予定より10日前だったため、白金で開催される研究会の座長を安易に引き受けてしまった事を後悔しました。奥さんから早朝に陣痛が来たかとも言われ病院へ連れて行き、「今日出産ですね」と医師から言われた瞬間は、漫画で見るとような所謂あたふたする旦那だったかと思っております。子供には申し訳ないですが、子育ても研究と同じように、ああでもないこうでもない日々検討を重ねながら過ごしております (笑)。旦那から父に変わった今、それまでになかった責任感というのは僕としては良い影響でして、より一層研究者として飛躍しなくてはと改めて感じるようになりました。

毎回、活躍する同窓生という記事を読んでおりますが、やはり理学部の特色は様々な分野で活躍できる可能性を秘めているところにあると感じました。私自身も、理学部物理学科から医学部病理学講師になる未来を想像していた訳ではありません。今回の受賞、昇任というのが活躍と呼んで相応しいかどうかは別として、今後とも卒業生として恥じぬよう邁進して参りたいと思っております。



## 同期会報告

### 2020年 化学科卒業50周年

#### HC5 中野 勝雄

2019年（令和元年）10月5日（土）、季節外れの真夏日に衛生学部化学科5期生の同期会を白金キャンパスの「北里白金サロン」にて開催しました。

毎年、遠方からの参加が有り今年は福岡や新潟から、またハワイヤンで名を馳せた友も参加し、久しぶりの再会に話しが弾み時間を忘れました。二次会は醸造学でお世話になったエビスビール発祥の地、恵比寿ガーデンプレイスに場所を移して行いました。

本年2020年は卒業50周年です。渡辺ゼミで油脂化学を学んだ代表幹事は記念イベントを実施したいと話していました。白金

時代には記憶に残る他大学で大学紛争が起き、長木学長の声明が出されました。講義、実習、教育課程、卒業研究等を振り返って懐かしい思い出話をしませんか。

今回、ご都合で参加出来なかった同期の皆様、是非次回の出席をお待ちしております。



### 2019年度旧衛生学部化学科 6期生同期会開催

#### HC6 吉元 久子

2019年11月16日、旧衛生学部化学科6期生の同期会を毎年恒例の会場である渋谷のトラットリアベルマーレにて開催しました。このお店は化学科2期生の木津秀幸氏がオーナーです。本同期会は31年前にはじめて開催し、途中何年か中断がありましたが、2012年にリスタートしてからは毎年開催しています。今回の出席者は21名でした。当日は偶然にも「高輪ゲートウェイ駅」の開設準備のために山手線や京浜東北線の区間運休があり、渋谷に来るのに苦労された方もおられました。70歳を越えた同期生の近況は、病気自慢が中心でしたが、まだまだ現役で活躍している方もいて頼もしく思えました。二次会にも全員が出席

し、話が尽きることがありませんでした。人生まさに100年時代、また来年も渋谷で会うことを約束して散会した次第です。最後に、開催にあたり多大なご配慮をいただきましたベルマーレの皆さまに感謝申し上げます。



### 北里C7クラス会 2019年幹事

#### HC7 石原 裕三

北里大学相模原校舎初育ちの我々化学科7期生も大学を卒業し、それぞれの分野で活躍、退職、毎日サンデーの年金生活になり70歳の古希を迎える年になった。

2019年11月2日、久方ぶりに東京浜松町に23名が集い大学で過ごした日々を、年金を、健康を、そして孫を話題に楽しいひと時を過ごした。

総勢97名で卒業したが仲間も既に11名が逝去しており、自分やご家族の健康上の都合で参加できない人も発生し始めている。

遠方からも大勢ご参加いただいたが関東周辺の在住者が多い

ため開催場所はどうしても東京にせざるを得ない。

年齢を重ねると地方から上京することは体力的にも経済的にもだんだん難しくなるが今後もC7クラス会は2～3年おきに続けていきたい。

お互い健康に留意し次回も是非またご参加いただきたい。



## 理学部事務室より

### ● 2020年オープンキャンパス開催情報

第1回 2020年3月15日(日) 10:00～16:00  
 第2回 2020年8月1日(土)、2日(日) 10:00～16:00  
 第3回 2020年8月23日(日) 10:00～16:00  
 各研究室、実験室を開放し様々な展示及び体験型実験教室を開催しております。是非お訪ねください。  
 ※日程は変更になる場合があります。

### ● 2020年入試説明会

#### ○入試対策講座・進学相談会開催情報

2020年11月7日(土)、8日(日) 10:00～16:00  
 入試対策講座を学部別に各教科50分に拡大して実施します。各学科の教員による個別相談を実施します。授業内容や就職先など様々な質問にお答えします。  
 ※日程は変更になる場合があります。

#### ○北里祭・進学相談会開催情報

2020年11月7日(土)、8日(日) 10:00～16:00  
 模擬講義・個別入試相談を実施します。詳細は北里大学ホームページ (<http://www.kitasato-u.ac.jp/>) をご覧ください。  
 ※日程は変更になる場合があります。

### ● 教材の貸し出しを行っています

教員となられた卒業生の皆様に、ニワトリ胚標本、透明骨標本セットを教材として貸し出しています。教科書で教える動物発生よりも後の段階となりますが、肉眼で観察できますので、生徒の興味を惹く素材としてご利用いただけます。



詳細は下記(学生課)までお問い合わせください。

### ● ハーバード大学との国際交流

理学部では、7月にハーバード大学との国際交流プログラムがあります。このプログラムは2009年度から実施しており、国際的な視野を備えた研究者の育成を目指し、米国ハーバード大学の研究者と交流を深めています。

本プログラムは、派遣・招聘を隔年で実施しており、今年度は7月14日(日)～7月20日(土)にハーバード大学医学部から4名を同学部へ招き、セミナーやミーティング、研究室の見学などを行いました。また、学部生や大学院生が、ボランティアとなって東京の日帰り観光を自分たちで企画し、招聘者に1日を通して日本文化の紹介を行いました。

### ● 求人情報をお寄せください

本学部の就職状況については、理学部同窓会のご支援もあり、毎年100%近い就職率を維持しておりますが、昨今の経済状況を鑑みると決して楽観出来る状況ではありません。学生たちは学業の傍ら、厳しい就職活動をくぐり抜けなくてはなりません。そこで、同窓会の皆様におかれましては、益々のご支援、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

求人票の学生への周知や、学内での企業説明会のご要望などを随時承っております。

### ● 理学部公式Twitter

理学部公式Twitterを開始しました。理学部の入試情報や、物理学科・化学科・生物科学科の最新情報・イベント情報などを発信していますので、ぜひご覧ください。



### ● 物理学科模擬授業

主に神奈川県、東京都の高等学校を対象に、5つのテーマをご用意し、出張模擬授業を実施しております。

詳しくは、北里大学理学部 物理学科スペシャルホームページ ([https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/research/buturi/phys\\_sp/](https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/research/buturi/phys_sp/)) をご参照ください。



#### お問い合わせ先

##### 理学部入試に関すること

TEL 042 (778) 9172 (入試係直通)

FAX 042 (778) 9953

##### 就職に関すること

TEL 042 (778) 8545 (学生課直通)

FAX 042 (778) 9953

##### 大学院入試に関すること (理学研究科入試係直通)

TEL 042 (778) 9083

FAX 042 (778) 9953

## 【就職情報・求人票ご提供のお願い】

北里大学就職センターでは、各企業・機関から受領した貴重な求人情報は、「進路支援システム」（本大学学生用就職情報公開サイト）に一括掲載し、全キャンパスの学生がWebで閲覧できるシステムになっています。

同窓会の皆様からも是非、後輩のために求人情報等を就職センターにご提供ください。手続きにつきましては、本学ホームページ「資格・就職」から「求人受付NAVI」（企業登録手続きがあります）を通じて入力できますし、ご郵送・FAX・E-mailでも受付けております。

卒業後に転職・就職を希望している方も「進路支援システム」がご利用できます。ご利用頂く場合には、ID・パスワードが必要となりますので、就職センターまでご連絡ください。

【北里大学 就職センター】 TEL 042-778-9745  
E-mail syusyoku@kitasato-u.ac.jp

## 同窓会からのお知らせとお願い

平素は同窓会活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。以下の点につきまして、会員の皆さまにお知らせとお願いがございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 【同期会や研究室の同窓会を開催予定の方へ】

理学部同窓会では、正会員が同期会や研究室の同窓会（以下、同期会等という）を開催される場合に、当該名簿リストやタックシールの提供、それに通信費用の援助を行う事業を行っています。加えて、平成29年より同期会等の開催を本会ホームページに掲載するサービスを新たに開始しておりますので、是非本制度をご活用下さい。詳しくは理学部同窓会のホームページ（<https://kitasato-rigaku-d.jp/>）をご覧ください。

### 【理学部パンフレット同封について】

2008年第11号の会報発送より、北里大学理学部パンフレットを毎年1,000名の方々に同封しております。現在の北里大学理学部の様子がわかる他、ご子息・ご息女やお知り合いの方々に北里大学理学部をご紹介いただければ幸いです。

### 【同窓会へのメールについて】

近年、迷惑メールが増加しております。その判別のために、会員の皆さまが本会にメールされる場合は、「件名」欄に以下の事項をご記載下さいますようお願い申し上げます。

＜卒業年または卒業期、卒業学科、氏名＞

記載例：1971年化学科卒業 理学太郎 または  
HC6 理学太郎

### 【会報への寄稿について】

同窓会会報は年に1度の同窓生との交流の場です。皆さまの近況報告や同期会のお知らせ、大学時代の思い出などをお気軽に寄稿下さい。同時に、会報へのご意見もお寄せいただければと思います。

## 編集後記

同窓生の皆様こんにちはは衛生学部生物科学科4期生の秋本 護です。理学部同窓会会報第23号をお届け致します。ご寄稿頂きました方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

理学部同窓会活動を中心に同窓生、理学部等の近況を皆様にお伝えできればと中野会報チーフの元、会報スタッフ中心に作成致しました。一読頂ければ幸いです。ゴミ箱直行だけは何卒ご容赦願います。

いよいよオリンピックイヤーです。昨年のラグビーワールドカップ2019はたいへんな盛り上がりでした。新国立競技場も完成し、いよいよという雰囲気ではないでしょうか。ちなみに大学がある相模原市は、自転車ロードレース競技のコースが緑区を通るようです。コースは、武蔵野の森公園をスタートして、相模原市緑区を通り、道志村、山中湖、富士山麓を経由し富士スピードウェイがゴールです。チケットを持ってなくても観戦できる数少ない競技です。観戦のチャンスではないでしょうか？

## 物理学科フォトンクス講座 吉國裕三教授 退任記念講演会開催予定

日時：2020年3月25日（水）16:00～17:00  
場所：L1号館 3階32講義室  
演題：光の物理学

## 北里大学理学部同窓会報

発行 2020年1月31日  
発行者 北里大学理学部同窓会  
〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1  
北里大学理学部内 TEL/FAX 042-778-9032  
E-mail : info@kitasato-rigaku-d.jp  
責任者 沼上清彦